

# ふれあい

2026

6

No.471

牛久愛和総合病院 広報誌



## 副院長就任にあたって

循環器科 副院長 藤 縄 学



救急や高度医療など本来担うべき役割を、しっかりと果たすことが求められるようになりました。

当院は地域の中核病院として、救急医療や入院加療、専門的な治療を必要とする患者さんに対して、「必要な時に、早く、確実に対応できる病院」であり続けたいと考えております。私は、循環器を専門にしていることから特にその想いが強く、その体制を維持するためには、地域の医療機関との連携が欠かせません。病状が安定している患者さんや慢性疾患の管理については、地域のかかりつけ医（お近くのクリニックなど）の先生方に診療をお願いし、「専門的な検査や治療が必要な際には当院が責任を持って対応する」という役割分担を、今後さらに進めていきたいと考えています。「病院が変わる」と聞く不安に感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、地域の先生方と、私たち急性期医療を担う医師がしっかりと連携し、患者さんを切れ目なく支えていくための仕組みですので、どうぞご安心ください。

また、私は当院に赴任してからの15年以上にわたり、臨床研修医の教育に携わってまいりました。現在、当院には約12名の研修医と、さらに内科専門領域へ進んだ3年目以降の専攻医が約6名在籍しています。若い医師たちが熱意を持って患者さんと向き合い、一生懸命に学んでいる姿は、病院全体の大きな活力となっています。

若い医師たちが、現場でたくさん経験を積み、成長していくことは、将来の茨城県を支える大きな力となります。これからも若い研修医の教育に責任を持ち、活気ある病院作りに貢献していけたらと思います。

報道などで耳にされたことがあるかもしれませんが、近年、日本の医療を取り巻く環境は大きく変化しており、全国的に病院経営が厳しい状況に直面しています。また、今年度の診療報酬の改定でも、当院のような急性期病院では、

報道などで耳にされたことがあるかもしれませんが、近年、日本の医療を取り巻く環境は大きく変化しており、全国的に病院経営が厳しい状況に直面しています。また、今年度の診療報酬の改定でも、当院のような急性期病院では、

時代の変化に対応しながら、「患者さんへの安心の提供」を忘れることなく、地域の先生方と密に連携して、より良い医療へ進んでいきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしく願います。



# 医療用AIと口腔外科診療には相関があるか？

歯科口腔外科 部長 河地 誉

近年、AI(人工知能)技術は医療分野で急速に導入が進んでおり、タスクシェア(業務の分担)における重要なパートナーといえます。画像診断、手術支援、手術期管理、文書作成などでAIをうまく活用することは、医療者の負担軽減となり、有効なツールであると考えられます。期待が高まる一方で、医療分野におけるAIの普及率は、2023年時点で21・6%であり、2025年にはやや上昇が見られますが、約8割の医療機関が「導入していない」のが現状です\*。

AIは、大量な情報から、整理・検索・パターン抽出が得意ですが、情報処理が得意でも、患者さんの「不安に寄り添うこと」はできません。「家族背景」や「微妙な表情」、「倫理的な判断」を完全には理解できず、「配慮すること」はできません。また、複雑症例における専門的な判断能力がないため「稀少な疾患への対応」はできません。AIの台頭は目覚ましく、多くのメリットをもたらす一方で、今のところ、医療の分野では、補助的な役割となり、人間の最終判断が必要で、AIの活用により、医療の質を向上させる一方で、使う側の人間の尊厳と公平性や、倫理的な側面、責任の所在などを注視しなければなりません。

歯科口腔外科診療において大切にしている心支度は『用意周到』と『深研精到』です。「周到」とは、「抜けや漏れがないよう、広く注意が行き届いている」で、準備や配慮が万遍なく整っているという意味です。「精到」とは、物事を「深く研究し、細部まで考察し、精密に到達する」意味があり、議論や分析を、細部まで正確で抜かりのない様子を指します。病態を深く理解し、解剖や術式を十分に研究し、術前評価から術後管理まで細部に配慮し、精密に診療を行い、学術性と臨床精度の両立を意

味します。口腔外科診療においては、単に「慎重さ」ではなく、「深い洞察と緻密な実践」が必要であると考えています。当院の歯科医師・歯科衛生士は、理論に基づき、十分な知識に裏付けられた技術を持つよう日々研鑽を積み、人の心に寄り添える診療を心掛けています。

今後、求められる医療と人の価値観は刻々と変化し、情報は瞬時にグローバル拡散し、その情報はAIによって管理される時代になります。AIの台頭により、口腔外科診療も均てん化され、うまく活用することができれば経験の差を埋めることができる可能性があります。慣例のみでは時代の流れに取り残され、短期間で過去の実績は追い越されてしまいます。今までの心支度を大切にしながら、日々の診療活動のみならず、多くの先生方との交流、若手歯科医師の育成、学会などへの情報発信、そして

未来への懸け橋となるような研究活動にも勤しんでまいりたいと考えています。

(参考文献)

\*医療現場における医療AIの導入状況の把握、及び導入に向けた課題の解決策の検討のための研究(厚生労働省研究成果データベース)

## 入 職 者

5月1日付

### 医療福祉相談室

医療ソーシャルワーカー

中山 恵子

患者様やご家族様のご不安やお困り事を一緒に考え、ご支援できるよう努めて参ります。

### 人事部

清掃 田澤 良明

これまでの経験を活かし、みなさんが安心して過ごせる環境づくりに努めます。

5月16日付

### 医事情報部

事務 佐藤 梨央

初めての職種で分からない事もありますが、日々知識を吸収していき、精進して参ります。

事務 齋藤 敦子

患者様に安心していただけるよう正確で丁寧な対応を心がけて参ります。

## DMカフェ

糖尿病・代謝内科

吉田 珠生



6月になり、気温も湿度も上がってくる季節になりました。実はこの時期、気づかないうちに水分不足になりやすくなります。こまめに水分をとることで、血液の流れが保たれ、だるさや立ちくらみ、こむら返りの予防につながるほか、血糖の安定にも役立ちます。のどが渇く前に、少しずつ飲むことを意識してみましょう。コツは、起床時や食事の前後、トイレのあとなど「飲むタイミングを決める」ことや、手の届く場所に飲み物を置いておくことです。目安は1日1.5L程度。飲み物は水やカフェインの少ないお茶など無糖のものがおすすです。清涼飲料水や甘いコーヒーは血糖を上げてしまうため控えましょう。コーヒーや緑茶に含まれるカフェインには利尿作用もあるため、水分補給の中心には向きません。外出時には飲み物を持ち歩くこともおすすです。これからの季節は「こまめな水分補給」を習慣にして、元気に過ごしていきましょう。

### 春秋園だより

五月に入り暑い日が多くなってきた、春秋園の二階では衣替えを始めているご利用者様がいらっしゃいました。

衣替えとは、季節の変わり目に合わせて、その時期に適した衣服へ入れ替える、日本の習慣です。主な目的は、気温の変化に対応する機能性と、衣類の整理整頓やケアをし、衣類を長持ちさせることです。一般的には五月一日に夏服、十月一日に冬服へ変更するのが目安だそうです。

Tシャツ一枚で過ごされているご利用者様に、お話を聞くと「日中は暑い日が増えてきたけど、夜は布団をしっかりと被らないと少し肌寒いな」とのことでした。寒さを感じやすい方ですと、日中でも「チョッキを着たい」とダウンベストを羽織

られたりもします。春秋園では、こうした温度調整が苦手な方もいますので、都度お声掛けをさせていただきます。

これからの時期、本格的に夏に入り熱中症に気を付けていただくため、着ている衣服の調整や水分摂取の促し、エアコン等を活用し室温管理を行いたいと思います。特にこまめな水分補給ですが、ご高齢になるにつれて、のどの渴きを感じにくくなるため、時間を決めて水分摂取の量を増やしていくなどの、対策をとる予定です。ご利用者様だけでなく、職員一同もさまざまな場面で、水分補給の対策を行い、自分の身を守れるように気を付けてまいりたいと思います。いつでもご利用者様のために、万全にできるよう励んでいきます。

(春秋園入所二階  
スタッフ一同)

### 部署紹介

#### 入退院支援部

看護師長 三村 里美

入退院支援部では、現在看護師9名が所属し入院（予約入院）から退院までをサポートしています。「入退院支援看護師」という言葉はあまり聞きなれないかもしれませんが。私たちは、患者さんが安心して治療を受け、その後の生活へスムーズにつながるようお手伝いをしています。

入院前には不安なお気持ちや生活状況を確認し、病棟スタッフをはじめ必要に応じて院内の多職種や地域の関係機関と情報共有しています。また、退院後も安心して生活できるよう、医師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士などの院内多職種や地域のケアマネージャー等と連携しながら支援を行っています。高齢化に伴い、医療や介護を必要とする方が増える中、退院後の生活に不安を抱える方も少なくありません。私たちは、一人ひとりの思いに寄り添い、住み慣れた地域や希望する場所でその人らしい生活が続けられるよう支援しています。

これからも当院看護部の基本方針である「すべては患者さんのために」を大切に、安心して療養生活を送っていただけるよう地域とのつながりを大切にしながら温かな支援を心がけてまいります。



### Dr 趣味リレー

専攻医 細谷 鞠恵

私の趣味は街歩きとゲームです。アウトドア系とインドア系という真反対にある2つの趣味ですが、休日と平日で良い感じに息抜きができていく気がします。街歩きの際は必ず動物カフェが近くにないか探してみます。実家に柴犬がいてなかなか帰省できない身としては、街歩きるときぐらいいは動物をもふりたいと思います。動物カフェ、おすすめですが、癒されます。昔は脱出ゲームも大好きでよく友人とたくさんめぐってました。ゲームはどうぶつの森にはまり、鳥クリエイトを一時期一生懸命やっていました(笑) 世代のポケモンをゲームボーイアドバンスSPを買い直して懐かしさに浸りながらやるのも楽しかったです。購入して結局できていないものもあるののでいつかできたらいいなあと思います。

最後に復活させたい趣味としてはテニスと茶道です、家で眠っている道具たちを使いたいとひそかに思っています。テニスでできる人を探しの際は誘っていただけると幸いです。

# テラス・シヨップ&カフェ

(売店)

売店よりおすすめ商品のご案内です。

当店では店内調理のおにぎり・サンドイッチをはじめ種類豊富な出来立て手作りパンが人気です。

毎日数量限定で販売するオリジナルチーズソースを包んで焼き上げた『半熟チーズブレッド』、しつとりと焼き上げた『オリジナルコッペパン』がおすすです。

本格イタリアンコーヒーなど人気のカフェコーナー。生活必需品、介護用品や食料品まで数多くの商品をご用意しております。



**半熟チーズブレッド**  
三種のチーズと特製クリーム

shop&cafe bakery

お客様にご満足いただけるお店作りを努めさせていただきます。

スタッフ一同、心よりご来店をお待ちしております。

**編集だより**

新年度の忙しさも少し落ち着く頃でしょうか。気温や湿度の変化で体調を崩しやすい時期です。こまめな水分補給と十分な休養を心がけ、何卒ご自愛ください。

(Y・A)



**病院理念** 我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様 に最善の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

**病院概要** 病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

**施設** 敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



**診療科目**

**【一般外来】**  
内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

**【専門外来】**  
循環器疾患専門外来、ペースメーカー専門外来、不整脈外来、肝炎専門外来、糖尿病専門外来、甲状腺専門外来、血液専門外来、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)専門外来、リウマチ専門外来、関節専門外来(股・膝)、脊椎外来・足部外来、スポーツ外来、乳腺専門外来、小児神経外来、発達障害(自閉症・学習障害等)専門外来、小児心理外来、小児科免疫外来、小児科循環器外来、口腔機能外来、皮膚科レーザー外来、内視鏡科、心臓血管外科、そけいヘルニア外来、下肢静脈瘤外来、再建外来、女性泌尿器科外来

臨床研修指定病院／地域医療支援病院  
地域災害拠点病院／日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 常仁会

**救急 24時間**

## 牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地  
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031  
ホームページ <http://www.joinkai.com>

- 《関連施設》**
- 総合健診センター Tel 029-873-4334
  - 健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791
  - 人工透析センター
  - 読影センター
  - 地域リハ・ステーション
  - 介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
  - ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
  - 特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

